

読んでみよう 解いてみよう
さん太のワークシート

かつて「塩のまち」として栄えた倉敷市児島地区で、塩をテーマにした地域活性化プロジェクトが進んでいます。記事を読み質問に答えましょう。

てい がくねん
**低学年も
 チャレンジ!**

Q1 プロジェクトでは、オリジナルの塩を使った商品の開発・販売が始まっています。このほかに、記事を読んで分かったことを二つ書いてみて。



地域活性化プロジェクトとして、オリジナルの塩で開発した土産物

戸内海の水で製造した独自の塩を開発。この塩を使った商品づくりを地域に呼びかけている。

これまでに児島地区の菓子店などが、ようかんやマドレーヌ、おからクッキーといった土産物14点を作り、瀬戸中央自動車道の鴻ノ池サービスエリア（同市児島塩生）で販売を開始。地元飲食店もキーマカレーやたこ飯、たこチャーハンなど16のメニューを考案し提供を始めている。

土産物は今後、旧野崎家住宅（同市児島味野）でも販売する予定で、市内最大の観光地である美観地区や県内主要駅への販路拡大も目指す。白川雅也実行委員長（下津井電鉄取締役）は「プロジェクトを通じて地域の人、店舗、企業の縁を紡いで商品のバリエーションを増やし、児島の特産品に育てていきたい」としている。（池葉須則夫）

実行委と事業者連携

倉敷

**土産物
 グルメ
 販路拡大目指す**

かつて「塩のまち」として栄えた倉敷市児島地区で、塩をテーマにした地域活性化プロジェクトが進んでいる。商工関係者でつくる実行委員会が昨年秋から、地元の事業者と連携し、オリジナルの塩を使った商品の開発・販売をスタート。美観地区などに販路を広げていく方針で、歴史に根差した地域ブランドとして発信する。

（池葉須則夫）

児島地区は、江戸時代末期の「塩田王」と呼ばれた野崎武左衛門（1789〜1864年）が広大な塩田を築き、昭和まで製塩業が盛んだった。こつした経緯を踏まえ、児島商工会議所（同市児島駅前）や同地区発祥の下津井電鉄（岡山市北区大元駅前）などが昨年3月、地域おこしに向けた「倉敷児島塩結びプロジェクト」を企画、実行委を結成した。

同10月には武左衛門ゆかりのナイカイ塩業（倉敷市児島味野）との協業で、瀬

児島の「塩」で商品次々

2024年2月6日付、都市圏面

Q2 児島地区に広大な塩田を築き、江戸時代末期に「塩田王」と呼ばれた人物は誰ですか。次の三つから正しい一つを選びましょう。

- ①山田方谷
- ②大原孫三郎
- ③野崎武左衛門

Q3 商品開発では、これまでに地元の菓子店などが土産物を作っています。どんな物がありますか。記事にある三つを書いてみましょう。

過去の問題は
 こちらから▶▶

◇「さん太のワークシート」は自由にダウンロードして、学校や家庭での学習に活用してください。